

## 序文

この新国際点字楽譜表記解説は、World Blind Union (WBU) の点字楽譜表記分科会で長年にわたる協議の結果、得ることが出来たものです。

それは、1888年のケルン、1929年と1954年のパリ、それぞれの会議の後に出版された一連の表記法を引き継いでいます。この新しい表記法は、1982年から1994年までの間に開催されたWBUの分科会議及びワークショップで決議決定されたものを要約しています。とりわけ次の分野で表記の統一が達成されました。音部記号、通奏低音、ギター音楽、コード記号、現代音楽、及びその他多くの単一記号。

また本書はさらに、1954年の会議に出席していなかった東欧諸国の資料も含んでいます。それは、いくつか細かなところで、70年代および80年代にモスクワで出版された表記法が役立っています。

1982年のモスクワの会議 (Dr. Jan Drtina が議長に選任された)、1985年のプラハ、1987年のマールブルグ (ドイツ)、1992年のザーネン (スイス)、それぞれの会議では重要な討議が行われました。本書にまとめられたすべての記号と規則は、ザーネン会議の代表者達により賛成多数で採択されたものです。この会議の採決代表者の名前を後にあげておきます。

大変嬉しいことに、Bettye Krolick氏は、強い意志で新しい表記法をまとめ、同年の内に委員会のメンバーに最初の草稿を送りました。第二稿では、批判的、建設的な意見が集められ、専門家達に渡されました。この修正案は満場一致で確認され、最終的作業の基礎でありました。ほとんどの代表者達が最終版のために提案や資料を提供しました。

Vera Wessels氏 (オランダ)、David McCann氏 (イギリス)、Leif Haal氏 (デンマーク)、Ulrich Mayar-Uhma氏 (ドイツ) からなる編集グループが本の完成を手伝いました。

しかし、主な仕事をしたのはBettye Krolick氏でした。彼女は作業の進展が止まりそうなどころでは忍耐を示し、異なる意見のぶつかるころでは皆をなだめました。これは彼女の高く洗練された能力のおかげであり、彼女に深く感謝したいと思います。

同様に、墨字版の出版と配布をしたアムステルダムの SVB に、また視覚障害の利用者に注意深く学ぶ可能性を与えている点字版の印刷と配布をしたチューリッヒの SBS に感謝いたします。

我々大多数の合意に従って本書に記載された記号と規則が、点字楽譜出版物の中で厳密に使われることを望みます。したがって、異なる国の言語に翻訳され、将来の楽譜出版物に使われて欲しいと思います。疑問が生じた場合は、英語の原典版を大きな拠り所としてください。それは、各国間での点字楽譜出版物のやりとりを実現する唯一の方法です。

ほとんどの合意について言えば、歩み寄りなくして結論は得られるものではありませんでした。我々は、一国あるいはその他の国の伝統的な記号が決議に受け入れられなかったことに気づいています。馴染みのない記号や規則に係わることがあった場合でも、信頼ある専門家はこの新しい決定を尊重してください。

本書にはアフリカ、アジアの民族音楽を含んでいません。これらの地域の専門家には、まだ点字楽譜になっていないネイティブ楽器の墨字楽譜の記号を提供できるように考えてもらいたいと思います。

本書をもって点字楽譜表記の統一に関する仕事が終わってはなりません。特殊なケースのための書式と特殊な記号を決めていくことが、今後の我々の仕事となるでしょう。

視覚障害の音楽家、点訳者、その他多くの専門家から寄せられる多くの提案を、おおいに歓迎します。

何はともあれ、本書が広く使われ行き渡ることを願っています。またこれまでの会議の関係者各位には、その良き協力に感謝するとともに、この分野での更なる参加を期待しています。

WBU 点字楽譜表記に関する分科会

Ulrich Mayer-Uhma 議長

ザーネン会議 公式代表者  
1992年 2月23日～29日

オーストラリア	Tom Macmahon
チェコ共和国	Dr. Jan Drtina
デンマーク	Erik Kiorbye
フィンランド	Paavo Konttajarvi
フランス	Louis Ciccone
ドイツ	Ulrich Mayer-Uhma
イタリア	Giulio Locatello
日本	Toshikazu Kato
オランダ	Vera Wessels
北アメリカ	Bettye Krolick
ポーランド	Andrzej Galbarski
ロシア	Gleb A.Smirnov
スペイン	Juan Aller Perez
スイス	Christian Waldvogel
イギリス	David McCann

## 編集者記

- 1 本書の譜例のほとんどは、現存する点字楽譜表記解説から転用させていただいた事を感謝申し上げます。その中の多くが複数の国の出版物に出てきています。各国間では譜例が一般的に似ていても、異なる地域的習慣のために同一ではありません。ここで取り上げられているものは、国際的に採用された点字楽譜記号を使っている世界全体に、多様な可能性を提示し、また点訳のより一層共通した方法を明らかにしています。
- 2 ある国固有の記号が楽譜の中で使われる場合、例えばプラス記号、マイナス記号等、それらの記号は出版物の冒頭に記載されるべきです。本書では、北アメリカ点字協会（Braille Authority of North America）出典の固有の記号が使われています。その記号は次のようなものです。

⋮	プラス	
⋮	マイナス	
⋮	⋮	丸カッコ、挿入語
⋮	斜線	
⋮	大文字符	
⋮	文字符	
⋮	イタリック体	

- 3 点字版では、単独に示す音楽記号は6点全部を打ったマス（訳注：メ）でその前後を囲んでいます。調子記号と拍子記号は常に、曲の上の中央に記されています。ただし、曲が非常に短い場合は、曲と同じ行の初めに記されています。墨字の譜例に終止線が記されていない場合でも、すべての点字譜例は終止線 ⋮⋮ で終わります。その他の細かなものすべては墨字と一致します。
- 4 譜例によって細かく異なるものには、次のようなものがあります。
  - A. 3マス目から始まった前の行に続いて1マス目から始まる例、  
1マス目から始まった前の行に続いて3マス目から始まる例、また、  
1マス目か3マス目から始まり途中で終る行が続く例などがあります。

- B. 各行の最初の音符に音列を必要とするものもあれば、音列を必要としないものもあります。本書には両方の譜例が出てきます。
- C. 鍵盤楽器の譜例では、小節ごとに最初の音符に音列をつけるものもあれば、そうでないものもあります。
- D. 短い音価の音符を、他の国々よりも広範囲に集合にしている国々があります。両方の種類の例が出てきます。
- E. 音部記号を、他の国よりも広範囲に使用している国々があります。例には両方の方法が出てきます。
- 5 世界中で使われている特殊な書式の細目は、本書の記号表には出てきません。
- 6 点字楽譜は可能な限り正確に墨字楽譜に従うべきであるという、世界的な強い声明がありますので、このことはすべての例で実践されています。省略形の後のピリオド使用、外国語でのアクセントの有無等、これに含まれます。
- 7 テキスト全体を通じて、記号の表からの抜粋は、使われる譜例の前に四角い枠の中に記載されています。(訳注：日本語訳では、枠は省略)
- 8 “usually” と “generally” (普通に、一般的に) の言葉は、実践していない国がひとつでもあると解った場合に出てきます。この 2 つの言葉は区別なしに使われます。“must” と “should” (・・・べき、・・・しなくてはならない) の言葉は、それとなく世界的な同意を示しています。

Bettye Krolick